

社会福祉法人 太陽社会福祉事業協会

救護施設 ジョイガーデン 平成28年度事業実施報告書

1. 施設の概要

(1) 施設の概要

- ① 施設種別 救護施設
- ② 所在地 〒679-4232
兵庫県姫路市林田町上伊勢1137-1
- ③ 設置・経営主体 社会福祉法人太陽社会福祉事業協会
- ④ 定員 入所100名
- ⑤ 現員 入所109名（平成29年3月31日）

2. 支援体制

(1) 個別支援計画策定会議（グループカンファレンス）

- ① グループカンファレンスは4グループに分かれて担当利用者を対象として全体的な事項から「救護施設個別支援計画書」までを定期的に検討した。
- ② 利用者にケース担当職員を置き、その職員が主に「救護施設個別支援計画書」に必要な聞き取りを行い、個別支援内容の案を提示し、各ケース会議で順次検討していく。アセスメント票においては、自立を目指している利用者には施設独自の地域移行者アセスメント表を使用した。
- ③ 各グループでの検討事項や調整内容でスタッフ全員に周知する必要がある事項はスタッフ会議で報告し、常に検討内容や展開方法が全介護職員のものとなるように努めた。

3. 生活支援

(1) 目的

日常生活全般については、平成28年度事業計画より支援内容を展開してきたが、その方向としては利用者主体、自主性の尊重を基本とした個別支援を目指した。

(2) ADL関係

- ① 食 事

現在、食事に全面介助を要する者はなく、一部見守りや配下膳が必要な方は61名である。また障害や病状の程度に応じて刻み食やお粥、一口大のおにぎりにする等の配慮をしており、介助スプーンやフォークを使用することで自立摂取が可能な状態である。

② 入 浴

自力で入浴できる利用者に対しては、毎日入浴できるようにしている。大浴場の入浴時間は午後4時から9時までとしている。女性利用者はユニットバス利用していただいているので大浴場は男性のみの利用となっている。介助入浴は、男性が毎週火・木・土曜日の午前と午後を実施している。特殊浴槽を用いての入浴、現在は3名（男性3名・女性0名）ある。

③ 排 泄

排泄の自立状況は別表のとおりである。現在、おむつやパットの一部介助や全面介助の利用者は8名である。また、要介助者だけに留まらず便秘または下痢で体調を崩すケースも少なくなく排泄は体調管理に重要な事項であり、職員としては最善の注意が必要でもある。

④ 歩 行

歩行の自立状況は以下のとおりである。施設生活においては移動が可能である者でも行事などで外出すると移動範囲が長いこともあり補助具が必要になる場合がある。

※ADL関係への対応に関しては『救護施設個別支援計画書』の利用者の希望・要望を取り入れアセスメントをした結果をニーズ整理し支援計画を立案し実施していく。

(3) 清潔保持

身の清潔を保持するため、毎日の衣類交換や可能な限り利用者の力で洗濯ができるような援助等を基本とする。

① 散 髪

毎月第2土曜日に理髪店より来ていただき施設内にて理髪してもらった。散髪代は整髪1500円、丸刈り1000円、髭剃りが不必要の場合は整髪1300円、丸刈り800円である。

② シーツ交換・布団クリーニング

シーツ交換は毎週火曜日に2階、水曜日に3～5階の利用者のシーツ交換を

実施した。布団クリーニングは4月から10月にかけて1回目を行い、11月から3月にかけて2回目を行った。

③ コップ消毒

3～5階は毎週水曜日、2回は毎週日曜日に利用者個々が持っているコップを職員が一括消毒を行い衛生管理を行った。

(4) 生きがい活動

① 行 事

(月例行事)

平成28年度は、当初計画の行事をすべて実行した(8月10日鶏足寺火祭りは雨天のため中止)。各行事とも担当が終了後に参加した利用者から意見を聴取し次年度への取り組みに役立てるようにした。

実施月日	行事等の名称：場所：内容	参加者数／入所者数
4月6日(水)	観桜会：レストランスワン(体調不良者多数の為)	39名／109名
5月1日(日)～ 5月31日(火)	端午の節句	—
6月14日(火)	日帰り旅行《須磨水族館》	37名／108名
7月1日(金)～ 7月13日(水)	七夕：食堂 1階ロビーに竹を設置し短冊に願い事を書いて頂き飾る。	—
7月23日(土)	新宮町花火大会見学	18名／108名
8月10日 (水)	火祭り(太陽公園)	25名／108名
9月13日(火)	日帰り旅行《白鳥城・スワン》	22名／107名
9月24日(土)	お月見の会・敬老の会(2F・食堂)	62名／107
11月21日 (月)・24日(木)	日帰り旅行《城崎 カニ》	44名／107名
12月21日 (月)	クリスマス・忘年会 催し物：ボランティア来所・ビンゴ大会	76名／108名
1月4日(日)	初詣：赤穂市 大石神社	33名／109名
1月13日(金)	もちつき	93名／108名
2月2日(水)	節分	72名／108名
2月16日(木)	昼食に鍋を提供	107名／110名

(誕生会)

毎月第2土曜日にその月の誕生者にその方の希望する料理を提供し、品物（500円分）を施設からプレゼントした。場所は1階集会室を利用しいつもととは違う雰囲気の中で味わって頂いた。また、施設職員2名も同席して食事を共にして懇親を深める機会とした。

例：にぎり寿司、刺身、トンカツ定食 エビフライ定食、カツ丼、牛丼、オムライス、天ぷらうどん、サンドイッチ 等

(茶話会)

ボランティア来所日に飲み物とお菓子を提供した。大正琴、和太鼓の演奏等を楽しんでもらった。平均参加率 52%

(ビデオ鑑賞会)

隔週日曜日に利用者の要望する映画を上映した。上映作品は邦画（時代劇、連合艦隊、日本一のほら吹き男、等）洋画（ターミネーター、ポセイドンアドベンチャー等）である。

② クラブ活動

平成28年度も2クラブを実施した。各クラブの活動報告は以下のとおりである。実施については、年度初めに利用者本人の希望を取得した。安全で確実な支援を行うため、複数の職員担当として実施した。

カラオケクラブ(クラブ員20名)

毎週日曜日に実施した。時間は15:00～17:00である。

釣りクラブ(クラブ員16名)

6月に2回、8月に1回、9月に1回、10月に2回実施した。行き先は姫路的形遊魚センター、室津湾で、釣り上げた魚は施設で調理をしてクラブ員に食べていただいた。

※社会生活関係に関しては『救護施設個別支援計画』の利用者の希望・要望を取り入れアセスメントした結果をニーズ整理し支援計画を立案し実施していく。

③ レクリエーション

出来るだけ利用者の希望が多いものを取り上げレクリエーション活動として実施した。

実施月日	行事等の名称：場所：内容	参加者数／入所者数
4月26日(火)	ソフトボール大会	19名／108名
11月11日(金)		18名／107名

10月24日(月)	ボーリング大会	32名/108名
3月23日(木)		33名/109名
毎週日曜日	姫路市立図書館 青山分館	総参加者数188名

④ 高齢者対象レクリエーション

高齢利用者が増加するにしたいが、その方々への支援として毎週土曜日若しくは日曜日にレクリエーションを実施している。頭や体を動かして頂き老化防止に努めることを目的とした。平均10名の参加となっている。実施内容は輪投げや棒体操、風船バレー等である。又、施設敷地内に家庭菜園を設置し、野菜や花を育てた。

(5) 週間スケジュール

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日	日曜日
6時半	起床・洗面・着替え・居室清掃						
7時半～8時半	朝食（治療食・介助食は7：15）						
8時半	館内清掃作業						
9時15分	利用者朝礼・ラジオ体操						
9時半	外出・病院受診・作業						自由時間
10時		介助浴 特浴		介助浴 特浴		介助浴 特浴	
12時～13時	昼食（治療食・介助食は11：45）						
13時40分	ラジオ体操						
14時	外出・作業・クラブ						映画鑑賞
15時	病院受診						
16時 ～17時半	入浴						
18時～19時	夕食（治療食・介助食は17：45）						
18時半 ～21時半	入浴						
22時	居室消灯						
23時	全館消灯						

(6) 社会生活関係

① 日常生活

当施設における入所者の内、何らかの作業をされている方は述べ74名である。それらの利用者にとっては内職作業が生活の中心となっている。日中の時間の有効利用という面と工賃の支給による貴重な収入源という面での熱心な利用者が多い。複数の作業をされている方も16名いる。

現在クラブ活動はカラオケクラブ、釣りクラブのみであるため余暇の充実を図ることができていない。利用者が求めるクラブの増加が急がれる。また、利用者の中には入所後すぐに退所に向けてアパート探し等をはじめ方もおられるため、クラブに参加しない方が増えてきている。また、行動障害がある利用者が増加したことで、その支援が難しくなっている。利用者の生活を守る上で大きな課題となり、職員のスキルの向上が急務である。

② 外出（買い物、趣味、娯楽）

外出として、最低月1回はその機会を保障するという立場に基づいて《フリーショッピング》と題して日頃出来ない買い物などをあいていただく機会を設けた。自力で公共の交通機関を利用出来る者には、最寄駅への送迎を毎日往復2便《定期便》行うことで外出をサポートした。又、公共交通機関が利用しにくい立地である為、施設から15kmの範囲内（24回を上限）で希望する場所への送迎サービス《不定期便》を行っている。

外出状況（平成28年度）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
定期便	36	54	56	56	32	34	36	24	27	16	14	20	405
不定期便	18	14	12	14	34	47	51	32	45	32	26	36	361
Fショッピング	76	73	76	75	61	66	78	74	74	82	80	70	885
個別支援	68	69	70	56	48	52	46	64	70	44	50	58	695
便乗便	2	2	2	2	2	4	4	2	0	2	4	4	30
その他	4	2	2	6	8	4	4	4	6	10	4	0	54
合計回数	204	214	218	209	185	207	219	200	222	186	178	188	3726

③ 嗜好品、物品の購入、管理

嗜好品や物品の購入に関しては、近隣にお店が全く無く入手が困難なためフリーショッピングや外出支援を利用して購入して頂いている。外出が困難な利用者に対しては、個別支援外出を利用して頂いている。また、毎月2回のパン販売や月2回のお菓子販売を行っている。糖尿病患者等食事に配慮が必要な人には購入時に職員、栄養士、看護師が付き添い病状が悪化しないよう助言を行い利用者に理解してもらい、その人の支援活動に導いていくことに繋げた。それと並行し嗜好品や物品の購入に関して金銭面や健康面からのアプローチもしていくことができた。嚥下、咀嚼に問題があり

見守りが必要な4名の方には職員が購入品を預かり見守りのもと食して頂いた。しかし、現在のところ経済的なこと、健康や衛生管理上のこと等について利用者自身の訴えやニーズがでてくる前に職員側からアプローチがされているので、今後は利用者の自発的発想に基づく行動を尊重し利用者自身から訴え・ニーズがでてきたところで、職員の支援を利用者と話し合いながら検討していくことが必要である。

④ 金銭管理

基本的に自己管理していただいております、収入を考えて使用しておられる。しかし、一部の利用者で金銭の貸し借りが日常化している現実があり、その対応は個々の事情を考慮し検討しなければならない状況に陥っている。認知症などのため自己管理ができず施設で管理している利用者は29名である。また、現在自立や今後のためという理由で貯金をしている人が8名ある。その内の3名は借金返済のための貯金である。借金の理由は主に入所前の生活保護費の使い込みである。貯金は事務所で管理している。

⑤ 衣類支給

本人に選んでもらった衣料を現物支給という形で6～7月に夏物衣料を、10～11月に冬物衣料を支給した。また、夏物衣料は3,000円、冬物衣料は5,000円までとした。

⑥ 利用者懇親会

利用者と施設側の話し合いの場として毎月1回行った。利用者からは生活上困っていることやルールを守らない他利用者への苦情が多く寄せられた。職員が直接見かければ注意を行えるが、多くは職員が目が届かないところで行われているため、利用者がみかけた場合は職員に連絡をいれてもらうよう要請し、当該利用者に注意を行うこととした。設備、備品などについては利用者からの要望が大多数であれば意に沿うように努めた。また、施設からの様々な連絡を行い施設の方針を理解してもらうよう配慮した。

(7) 自立支援

① 居宅生活訓練事業(延べ2名)

- ・ 個別支援計画に基づき、自立希望がある利用者に対して実施した。定期訪問や毎月のモニタリングと目標設定を繰り返し、各々の課題に対する具体的な支援方法を提示しながら地域生活に適應できる技能を身につけていった。
- ・ 訓練中の2名はジョイガーデンまで通い、館内作業（廊下、トイレ掃除、雑巾洗濯）、館内作業（バリ取り）及び館外作業（白鳥城清掃）に従事し、工賃は自立貯金としている。仕事に加え、炊事・洗濯・掃除など、忙しい日々であるが

充実した生活が送られている。一名は就労支援の面接を経て就労開始となり、2月に居宅移行となる。もう一名については、4月に最終評価を行い中断となっている。

- ・今後、自立後の居場所を確保し地域に繋げていく支援が必要である。地域での生活を確立するためには、居宅移行した後の支援も大事であり、たとえ訓練が順調に経過しても、一人で新しい土地で生活を確立していくのは負担が大きく、アルコールや余暇時間を持て余すなどのマイナス面も現れる可能性があり、地域と繋がるまでの支援が必要である。地域移行時には、生活を安定させるためにも通所事業の実施も検討する必要がある。

4. 作業支援

(1) 目的

作業を利用者の『自己決定』支援の手段として捉え『作業』を通して活動の喜びを伝えることを目的とする。

(2) 農作業

平成28年度は施設給食の委託業者である丸玉フーズに販売が行えていない来年度は更に綿密に計画を立てて販売していくことが必要である。また、作業契約者は多いのに実際に作業する人員は少ない為こまめな声かけやモチベーションを上げていけるような工夫が必要である。最大参加者数は8名。作業料は1000円として設定した。

《平成28年度収穫野菜・売り上げ先及び内容》

(3) 授産作業

① バリ取り作業

前年に引き続き、車両の製品のバリをはがす、製品の検品作業を実施した。今年度より、バリ取りの最終段階まで作業を実施されるA班、荒くバリを取る作業をされるB班、納品をお願いするC班に分けて作業を実施し、B班、C班の利用者においては、施設より、1000円/回の作業料を設定した。作業参加者は合計16名。作業提供会社は井上化成(株)。

② かぶと虫作業

かぶと虫のくぬぎマット、朽木の袋詰め作業である。作業契約延人数は2名であり、1日の平均作業人数は2名。作業時間は毎週月曜日～土曜日、午後1時半～4時半。作業提供会社はくわちゃんハウスである。

(4) 館外作業（太陽公園清掃）

太陽公園内の石のエリアのトイレ3箇所と白鳥城内のトイレ清掃を行う。

太陽公園へは送迎を行う。石のエリアの作業契約人数は10名。トイレ清掃とは別に公園内のゴミ拾いに1名追加で参加し、一日の平均作業人数は、4.5名となった。白鳥城内の清掃作業の契約者人数は4名で、太陽福祉グループの救護施設南光園と日替わりで従事している。また、ゴールデンウィーク等は見学者が多くなるため作業依頼主の要請により毎日清掃作業を行なった。作業依頼主は太陽公園を管理している太陽公園である。

(5) 館内清掃作業（作業訓練）

平成28年度も継続的に提供できた。場所は食堂、浴室・脱衣場、廊下・洗濯室、喫煙室、テラス、トイレ、階段等20箇所である。作業契約延人数は27名～28名であった。この作業の対価は引き続き単価をトイレ150円、その他100円に設定している。

(6) 障害者支援施設三愛園地域交流ホーム清掃作業

平成28年度も障害者支援施設の地域交流ホームの清掃作業を実施した。作業契約者は3名である。作業時間は毎週月・水・金・土の15:30～16:30である。又、三愛園公用車の洗車作業に2日/週参加する。又、三愛園（通所）の食堂清掃作業に、2名の利用者が、月～土まで3日ずつ従事した。

※農作業においては、収入よりの作業工賃は無く、施設より、100円/回支給した。

5. 医 療

(1) 基本方針

主訴に耳を傾け、健康に生活を送っていただけるよう支援し、感染予防に努める。

(2) 施設内処置内容

- ・ 健康診断 年2回

(1回目)

検査項目:レントゲン間接撮影、検尿、検血、体重測定、血圧測定、視力検査、成人病検診

実施日:平成28年5月18日

対象人数:101名(入所後6ヶ月以上の者)

(2回目)

検査項目:検尿、検血、体重測定、血圧測定、視力検査

実施日:平成28年11月9日

対象人数:93名(入所後6ヶ月以上の者)

- ・ 薬物の管理
職員が管理している方は78名である。その内、自己管理の練習中の方が13名である。
- ・ インシュリン注射
3名の方が対象であるが、自分で血糖値測定と注射をすることができるので見守りだけを行っている。
- ・ 高血圧者血圧測定表の確認
- ・ 排尿／排便表の確認
- ・ 入浴時、オシメ交換時等身体観察
- ・ リハビリテーション
身体機能低下予防のため毎日リハビリが必要な方に対しては、看護師・介護職員が連携して歩行訓練を実施した。
- ・ インフルエンザ予防接種
実施日 平成28年12月6日
実施人数 105名

(3) 来診内容

- ① 綱島会厚生病院 内科、健康診断
往診日：毎月第1、第3火曜日
対象者：利用者全員
受診年間延べ人数 593名
- ② 六甲福祉会メンタルクリニック 精神科
往診日：月2回
対象者：精神疾患のある方
受診年間延人数 1,453名

6. 食 事

(1) 基本方針

利用者の嗜好を考慮し身体的状況をみながら家庭的な暖かみのある食事を提供する。

《平成27年度 施設内栄養基準》

エネルギー (Kcal)	たんぱく質 (g)	脂 質 (g)	カルシウム (mg)	鉄 (mg)
2100	70	55	700	10.0
ビタミンA (ugRE)	ビタミンB1	ビタミンB2	ビタミンC	
850	1.10	1.20	100	

(ア) 平均年齢60.0歳で勘案

(2) 実施状況

① 食事形態

- ・ 食事療法が必要な方など特別食（糖尿病食21名、塩分制限食23名、肝臓食3名、胃潰瘍3名、貧血食2名、腎臓病食1名）に該当する方や配膳することが必要な方には通常の食事時間より早めに時間を設定しゆっくりと食事できるように配慮した。
- ・ 咀嚼困難な方にはその状態によりあら刻み食（一口大20名）、刻み食（5ミリ角12名）で対応した。
- ・ 身体状況に応じて、自助食器、自助具、すべり止めシートで対応した。
- ・ 体調不良時にはおかゆなど利用者の要求も聞きながら適時適切な食事内容に変更した。

② 嗜好調査

- ・ 9月、3月にアンケート調査を行った。回収結果として、ほとんどの利用者の方が量、味付けに満足していただいていることがわかった。
- ・ 2回の嗜好調査を通して麺類、丼物、揚げ物、カレーなどの要望があった。希望メニューは回数を増やす、選択食に取り入れるなどして対応している。
- ・ その他として、肉・魚が硬い、などの意見も寄せられた。
- ・ 障害等で聞き取りが必要な方以外は本人に記入してもらい回収する。聞き取りが必要な方は栄養士、担当職員で聞き取りを実施した。回収率は98%。
- ・ 醤油、塩などの食事の調味料は必要時のみに提供している。アンケートでは味付けが薄く感じると答えた方が半数以上であったが、調味料の設置については必要時のみで良いと回答がある。
- ・ 施設行事として12月16日の創立記念日にお寿司を提供し、2月に鍋を実施した。どちらも好評で続けて欲しいと答えられた方が半数以上であった。

③ 衛生管理

- ・ 調理従事者の検便を月1回（5月～10月は2回）を実施した。
- ・ 委託業者による害虫駆除を行った。（年4回）
- ・ 衛生管理点検表に基づく衛生管理及び調理従事者の健康管理に留意した。
- ・ 水道水は残留塩素を調べて適切な濃度を保ち水の衛生管理を行った。（1日2回記録）
- ・ 夏場は刺身等の生ものは使用しない。
- ・ 適時適温提供のために、冷たいものは直前まで冷蔵庫で保管、温かいものはオーブンで保温するなど、提供方法を工夫している。
- ・ 調理後2時間以内に喫食する。
- ・ 加熱食品は中心温度が75℃以上あるか計測し記録した。
- ・ 食中毒予防ポスターを掲示し、厨房職員に注意を促した。

- ・ ノロウイルス等による感染性胃腸炎に対しては厨房内でも手洗い、うがいの徹底を行い、食中毒感染予防のポスターを掲示した。又、冬場は二枚貝の使用を中止している。
- ・ グリストラップについては、週に1回厨房職員が清掃し、状況を記録している。
- ・ 感染症防止として、食事前には必ず食堂で手を洗うように毎食事放送にて声掛けを実施している。
- ・ ノロウイルスによる集団感染症が発生した事もあり、毎日の清掃に加え、月1回の厨房内の大掃除を行っている。又、年間を通して作業終了後の消毒を実施した。体調不良者は申告し、感染拡大防止を図った。
- ・ 外部機関による厨房内の衛生検査を実施し、管理不十分な点は改善を行っている。
- ・ 冷蔵庫、冷凍庫の温度を毎日3回記録し、温度管理に努めている。

④その他

- ・ 毎月給食会議を開催して厨房業務の委託先である小野丸玉フーズと話し合いながら利用者のニーズにすばやく対応できるよう心がけている。
- ・ 選択食を月2回実施する。
- ・ 平成24年度に非常用備蓄食(利用者110名分、3食×3日分)を設置し、災害時等の食事提供に備えている。今後、避難訓練実施日に提供していく。
- ・ 暦や施設行事に合わせて、行事食を提供している。
- ・ インフルエンザ罹患利用者の急増により、拡大防止のため1月17日～21日の朝食までの期間使い捨て容器を使用し、各階の談話室で食事を提供した。

7. 職員研修

(1) 外部研修

実施月日	研修内容	研修場所	出席者数
4月27,28日	全国救護施設協議会・施設長会議	東京都	施設長 副施設長
5月31日	兵庫県更正施設連盟総会	神戸市	施設長
6月16,17日	近畿救護施設研究協議会 「救護施設の社会的使命をより高めるために ～行動指針を基軸として～」	大阪市	施設長 副施設長 介護職員
9月29日	姫路市病院栄養士研究会	姫路市	栄養士
9月29,30日	全国救護施設協議大会「新たな行動指針を中心にした生活困窮者支援の推進をはかろう」	青森市	施設長 副施設長 事務員
11月25日	平成28年度兵庫県更生施設連盟職員研究交流会	神戸市	施設長

10月26,27日	近畿救護施設協議会 個別支援計画研修会	大阪市	介護職員
12月14日 1月18日	近畿救護施設協議会 ケース事例検討会研修会	大阪市	介護職員
2月28日	近畿救護施設協議会 精神障がい者支援実践講義	大阪市	介護主任
3月17日	近畿救護施設協議会総会	大阪市	施設長

(2)内部研修

実施月日	研修内容	講師
7月8日	「個別支援計画について」	救護施設ヨハネ寮 前嶋弘施設長

(3)太陽福祉グループ職員研修会

実施月日	研修内容	講師
H28. 10. 31	「権利擁護で支援を見直す ～高齢者・障害者の権利擁護と虐待防止～」	(特) P A S ネット 代表 植田晴男
H29. 2. 10	「コミュニケーション」	株) ふくなかまジャパン 代表 眞辺一範

(4)職員意識調査(モラルサーベイ)の実施

職員の施設に対する率直な意見を知り、それを基にしてより一層働きやすい、明るい、風通しのよい職場をつくる目的で実施した。

8. 会議

施設運営と利用者処遇を円滑にするため各会議を定期的の実施した。

- (1) 職員会議 (月1回)・・・各会議の報告や利用者支援全般に関する事項の協議・検討の場とした。
- (2) リーダー会議 (月1回)・・・利用者支援全般に関する事項の検討の場とした。
- (3) リスクマネジメント会議 (2カ月1回)・利用者の生活面の事故や事故につながる可能性をチェックしその事故に対する危機回避の検討を行った。
- (4) スタッフ会議 (月1回)・・・介護職員が利用者支援上の諸問題について検討した。
- (5) グループ会議 (1～4班 月1回)・個別支援計画の作成、モニタリング、利用者の心身、生活面の方向性の検討行う。
- (6) 給食会議 (月1回)・・・厨房委託業者と行事食や利用者からの苦情への対応を話し合う場とした。
- (7) 居宅生活訓練会議(月1回)・居宅生活訓練事業に関する事項の検討・協議。
- (8) 医務会議 (2カ月1回)・・・医療面よりの利用者の心身状況、支援の方向性を

検討した。

9. 安全管理

(1) 防火防災

《防災訓練実施状況》

年 月 日	訓練内容	参加者数
7月21日	施設単独による通報、初期消火、避難誘導・報告訓練（夜間想定）	利用者103名 職員4名
12月9日	施設単独による通報、初期消火、避難誘導・報告訓練（昼間想定）	利用者108名 職員21名

(2) リスクマネジメント

施設生活での安全を図るためハード面、ソフト面から対策を講ずることを目的とした。ヒヤリ・ハット体験の情報収集を行い、それを分析かつ検討することにより他人事ではなく自身の問題として捉えるとともに対策を講じた。

《事故報告》

事故発生場所

場 所	件 数	場 所	件 数	場 所	件 数
食 堂	11	トイレ	1	テラス	1
居 室	19	浴 室	2	施設外	6
S R	15	談話室	1	廊下	11
合 計		70件			

事故報告の内容

内 容	件数	内 容	件数	内 容	件数
転 倒	39	配膳ミス	4	無断外出	0
服 薬	8	業務ミス	16	預り金	1
誤 嚥	1	火 傷	1		
合 計		70件			

《ヒヤリ・ハット報告》

ヒヤリ・ハット発生場所

場 所	件数	場 所	件数	場 所	件数
2階SR	2	廊 下	0	施設外	1

浴室	0	玄関	0	食堂	1
テラス	1				
合 計 5件					

ヒヤリ・ハット報告内容

内 容	件数	内 容	件数	内 容	件数
服 薬	1	配膳ミス	1	預り金	1
転 倒	0	誤 嚥	0	業務ミス	1
危険場所進入	1				
合 計 5件					

(3) 個人情報保護

個人情報保護法の適用遵守義務を受け個人情報データ、ケース記録等の管理の徹底を行った

10. 苦情解決

(1) 基本方針

社会福祉法第82条の規程により施設利用者がその苦情を公に且つ組織的に対応し、苦情内容の適切な解決に努める。

(2) 苦情解決状況

苦情解決責任者	救護施設ジョイガーデン 施設長
苦情受付担当者	救護施設ジョイガーデン 副施設長
苦情解決第三者委員	社会福祉法人太陽社会福祉事業協会評議員（1名） 峰相山 鶏足寺 住職（1名）
受付苦情	受 付 件 数・25件（投書枚数は25枚）
（平成28. 4. 1 ～29. 3. 31）	受付ルート・文書（意見箱への投函）による受付
苦情解決第三者委員への報告	平成28年5月12日

	区 分	内 容	解決方法	件数
1	施設への不満	職員の支援のあり方についての不満	主任会議において改善策を考え、職員に対して支援のあり方についての指導を行う。又、職員会議にて統一した支	9

			援の周知徹底を図る。	
		食事のメニュー及び調理方法への不満	栄養士より本人の意向を確認し、給食会議にて話し合いを行う。	2
		行事についての不満	職員会議等にて利用所の気持ちを取り、情報の伝達方法を協議する。	0
2	他利用者への不満	利用者の生活態度の不満	職員より現状、気持ちを把握し、利用者同士が腑に落ちるよう対応を検討する。	8
			懇親会にて周知する。	6

1 1. 地域交流

(1) 清掃活動

地域へ貢献することを意図して地域清掃活動を実施した。施設前の道路については施設を拠点に左右100メートルの範囲を活動場所とし、山道であるが利用者が多くゴミの不法投棄が多い大堤峠は山頂から施設方面への坂道終点までを活動範囲とした。その日の天候により参加する利用者の数はまちまちであった。

《清掃活動状況》

年月日	実施場所	参加人数
4月16日(土)	大堤峠	利用者 6名・職員 3名
5月21日(土)	施設前の道路	利用者 9名・職員 2名
6月18日(土)	大堤峠	利用者 7名・職員 3名
7月16日(土)	施設前の道路	利用者 10名・職員 4名
8月20日(土)	大堤峠	利用者 8名・職員 4名
9月17日(土)	施設前の道路	利用者 7名・職員 3名
10月15日(土)	大堤峠	利用者 8名・職員 2名
11月19日(土)	雨天中止	
12月17日(土)	施設前の道路	利用者 5名・職員 3名
1月21日(土)	施設前の道路	利用者 10名・職員 4名
2月18日(土)	大堤峠	利用者 6名・職員 2名
3月18日(土)	施設前の道路	利用者 6名・職員 2名

(2) ボランティア活動受入状況

主に月に1回開催している茶話会において演奏活動等で楽しませて頂いている。昨年度に引続き地域のボランティア団体からの申し出もあり施設が地域に受け入れて頂けるようになりつつあることが感じられる。

年月日	団体名	活動内容
5月12日(金)	楽団ポケット	楽器演奏
6月16日(金)	フラダンス	フラダンス
7月13日(木)	なでしこ会	大正琴
1月28日(土)	安井真人夫妻、他8名	和太鼓の演奏、詩吟

(3)姫路市社会福祉協議会林田支部

姫路市社会福祉協議会林田支部の地域のイベント等の活動に参加した。

1 2. 施設整備

(1) ワックス

5月に各階居室と廊下・談話室・食堂のワックス掛けを行った。

1 3. 職員健康診断

職員の健康管理のため、次の項目について年1回検査を行った。

(1回目)

検査項目：レントゲン間接撮影、検便、検尿、検血、体重測定、血圧測定、視力検査、聴力検査、成人病検診(35歳以上は胃透視検査)、内科診察、その他

実施日：平成28年6月2日～6月26日

対象人数：28名

1 4. 利用者状況

(1) 平成28年度在籍者数動向

	当月初日人数	入所者数	退所者数	当月末人数
平成28年4月	109	1	2	108
5月	108	2	3	107
6月	107	5	2	110
7月	110	0	2	108
8月	108	3	4	107
9月	107	3	3	107

救護施設ジョイガーデン

10月	107	1	0	108
11月	108	2	3	107
12月	107	2	1	108
平成29年1月	108	1	0	109
2月	109	3	2	110
3月	110	0	1	109
合計	1298	23	23	1298
月平均	108.1	1.9	1.9	108.1

(2) 平成28年度在籍者 実施機関・福祉事務所内訳

福祉事務所	人数	福祉事務所	人数
大阪市	27	川西市	2
姫路市	52	尼崎市	3
加古川市	14	宝塚市	2
たつの市	6	宍粟市	1
高砂市	2	福崎健康福祉	0
明石市	1	たつの健康福祉	1
神戸市	4	加古川健康福祉	2
三木市	3	堺市	4
西脇市	1	岡山市(北)	1
朝来市	1	木津川市	1
養父市	3		
合計131名			

(3) 平成28年度在籍者 障害状況

障害別 性別	知的障害	身体障害	精神障害	知的 + 身体	知的 + 身体	知的 + 身体	生活 障害	計
男性	7	16	18	0	0	0	0	41
女性	0	0	0	0	0	0	0	0
計	7	16	18	0	0	0	0	41

(4) 平成28年度在籍者 年齢状況

年齢 性別	30歳 以下	30～ 39歳	40～ 49歳	50～ 54歳	55～ 59歳	60～ 64歳	65～ 69歳	70～ 74歳	75歳 以上	計
男性	0	2	20	9	23	27	27	12	9	129
女性	0	0	0	0	0	1	0	1	0	2
計	0	2	20	9	23	28	27	13	9	131

(5) 入所・退所状況（平成28年4月1日～平成29年3月31日）

入所者数	退所者数
23	23